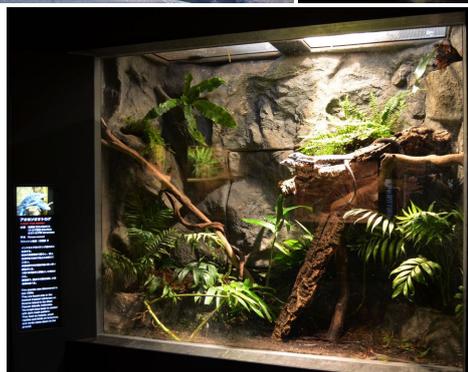


東京農業大学オホーツクキャンパス
学術情報課程年報2014

博物館と学芸員

を目指す



動物園も進化する

家族で過ごすアフリカゾウ（愛媛県立とべ動物園）、柵ではなく樹木に囲まれたカピバラ（伊豆シャボテン公園）
頭上をニホンリスが駆ける（恩賜上野動物園）、水中を向かってくるカバ（旭山動物園）、岩山に立つラマ（長崎バイオパーク）
爬虫類の美術品的展示・ガラス越しにオオカミを見る（札幌市円山動物園）

東京農業大学学術情報課程
（オホーツクキャンパス）

消えていいのか、日本の動物園・水族館。これは日本動物園水族館協会が2013年に行ったシンポジウム「いのちの博物館の実現に向けて」のサブタイトルである。以後、このシンポジウムは2015年2月まで計6回が開催されてきた。これまで当然としていた遠い地域のめずらしい動物を展示することが、今後はできなくなるかも知れない。このままでは動物園も水族館も絶滅するという強い問題意識が現れている。遠からずゾウやキリンがいなくなるのだという。水族館ではラッコが危機的状況にある。1982年に国内で初めて飼育されてから30年余り、1990年代には120頭以上が飼育されていたが、2014年には約30頭となった。何より危機的なのは繁殖年齢メスが一桁という数字である。ラッコが分布するアメリカやロシアからの輸入は止まったままで、いずれ国内からラッコは姿を消すことになるという。

野生動物の保護を求める声の高まりとともに、野生生物の輸出入を規制する国際条約が締結され、希少な生き物を国外に持ち出すことを禁じた法整備も各国で進んでいる。法律上の問題はなくとも、市民運動や住民の力の行使により、野生動物が持ち出せない状況さえ生まれている。生物多様性の保全、地域の自然の保護からすれば喜ばしいことに違いない。財力にもものを言わせて珍獣を見世物にする時代は、先進国では完全に終わったのである。ただし新興国ではいまだに需用が増えており、人気のある大型獣は市場価格が高騰、国内の公立動物園では手が出ない価格になっている。

危機は海外からの動物の入手だけでなく、飼育自体に及んでいる。動物園は、本来群れで生きる動物を少数で飼うことの是非について答えを出さなければならない。娯楽や教育、研究を経て究極的には生息地と個体群を守る技術と政策を生み出す必要悪と答えるのか、生息地まで出掛けて行って野生個体を見て楽しむのは一部の富裕層であり、大衆の楽しみには動物園が必要だと答えるのか。それとも飼育適合種を絞り込む方向に向かうのか。すでに地元のちいさな生き物へと、展示をシフトする動きもある。釣りや遊びで親しんだ地域の生き物を見直し、世代間の知識や文化の受け継ぎも含んだ試みである。身近な生物でも実は絶滅の恐れにあることも多く、生息地以外での保存の役割も持ち、奨励される飼育と考えられる。

倫理的な条件が重視されるのは動物園に限らない。研究機関で使う実験動物も、適切な飼育環境と苦痛の軽減が法令上の条件となっている。動物の福祉はエキセントリックな過激思想ではなく、もはや国際基準である。数十年後の動物園や水族館の将来の姿は、現在とは異なる様子になっているはずである。その形は、これから活躍する若者が決めていく。子どもの頃の思い出を胸に就職を思い描くのではなく、新しい人と動物の関係を作る仕事が残っている。

博物館情報学研究室・嘱託准教授 宇仁義和（うに・よしかず）

1. 開講科目

科目名	単位	開講年次	担当教員	教科書
博物館概論	2	1年前期	宇仁義和	オリジナルプリント
博物館教育論	2	1年後期	入宇田尚樹・宇仁義和	小澤周三編 1998『教育学キーワード』
博物館資料論	2	2年前期	渡部 裕	全博協西日本部会編2012『新時代の博物館学』
生涯学習概論	2	2年前期	宇仁義和	オリジナルプリント
博物館資料保存論	2	2年後期	渡部 裕	全博協西日本部会編2012『新時代の博物館学』
博物館展示論	2	2年後期	宇仁義和	オリジナルプリント
博物館情報論・メディア論	2	3年前期	宇仁義和	波多江潤子 2012『新詳細DTP基礎改訂三版』
博物館経営論	2	3年後期	宇仁義和	オリジナルプリント
博物館実習	3	3・4年通年	宇仁義和	オリジナルプリント

2. 館園見学

学年	見学施設	分野	設置者・博物館法による区分
1年	博物館網走監獄	建築・歴史	私立・登録
1年	網走市立郷土博物館・モヨロ貝塚館	総合・考古	公立・登録
1年	北海道立北方民族博物館	民族・考古	公立・登録
2年	釧路市動物園	動物園	公立・類似
2年	釧路市立博物館	総合	公立・登録
2年	エコセンター2000	公民館	—
2年	網走市立美術館	美術	公立・登録
2年	足寄動物化石博物館	自然史	公立・類似
3年	網走市立郷土博物館丸万収蔵庫	産業史・民俗	公立・登録
3年	美幌博物館	総合	公立・登録
3年	旭山動物園	動物園	公立・類似
3年	サッポロビール博物館	企業博物館	私立・類似
3年	札幌市円山動物園	動物園	公立・相当
3年	北海道大学総合博物館	ユニバーシティミュージアム	国立・類似
3年	札幌市青少年科学館	科学館・プラネタリウム	公立・登録
3年	サンピアザ水族館	水族館	私立・類似
3年	小樽水族館	水族館	私立・相当



網走市立郷土博物館



エコセンター2000

3. 授業内容

1) 外部講師による授業

(1) 「博物館展示論」

本学部の卒業生である美幌博物館の町田善康学芸員(生物生産学科H14年度卒業)による特別授業を、12月2日に2年生科目「博物館展示論」で実施した。同館がH23年度に実施した企画展「テーブルの上のホネ展〜ようこそホネホネ食堂へ〜」を題材に、展示資料の作成、収蔵資料の活用、バナーのデザインなどを解説した。教材として展示に用いられた骨格標本や剥製、ワークシートなどが持ち込まれ、展示会場のような教室となった。

(2) 「博物館経営論」

標津サーモン科学館の市村政樹館長による特別授業を、1月22日に3年生科目「博物館経営論」で実施した。同館は標津町の設置運営であったが、H25年度から市村館長が理事長を務めるNPO法人サーモンサイエンスミュージアムが指定管理者となっている。通常の飼育と展示、町内外の学校と連携した教育事業のほか、大学との共同研究、コンサルタント業務など自由度の高い活動を行っており、その様子を解説いただいた。

2) 博物館見学

当キャンパスは、スクールバスを使って90分以内に見学を終えて戻ることができる条件にあり、4学科共通の空き時間を利用して博物館の見学に出掛けている。今年度は新しい試みとして、公民館機能と小規模ホールを兼ね備えた生涯学習施設「エコーセンター2000」の見学

を行った。また、2泊3日で行く札幌見学旅行では、旭山動物園と札幌市青少年科学館、サンピアザ水族館が初めて訪問する施設であった。見学先の変更は、耐震工事などによる休館中の施設があったこと、そして動物園水族館に特化したことによる。

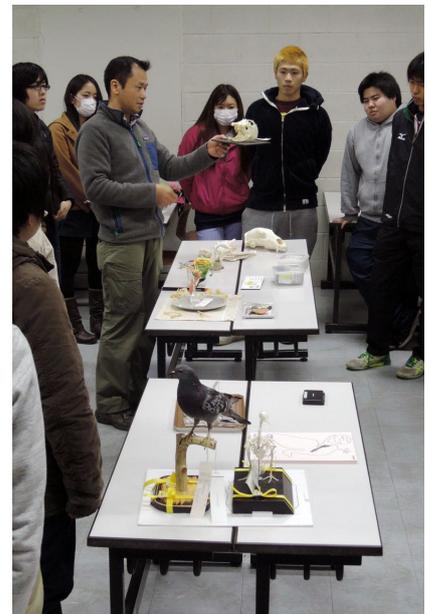
釧路市立博物館は本学部の卒業生、小樽水族館では本課程を終了して新卒で採用された職員が勤めており、卒業生には博物館での仕事の実現するまでの歩みについて講話をお願いした。

3) 展示実習

今年も北海道立北方民族博物館の特別展示室を会場に、3年生によるロビー展を開催した。今年度は同館との共催となっている。展示テーマは「網走川」とし、集水域全体を対象にした内容となった。展示の特徴としては、全学共有のB0判プリンタを使用したことで展示パネルいっぱい広がる風景写真が登場したこと、粘着ボードと透明フィルムの上に写真やシート状の資料をはさんで展示する黒色ボードの使用、そして発泡スチレンを切り抜いたシルエットパネルなど新しい試みがみられたことである。今年の透明標本は上手にできていた。クラゲの液浸標本の展示はめずらしい。

受講学生の1・2年生の見学会では、3年生に展示解説を呼びかけたところ男子1名が応じてくれた。事前に会場の写真を見せながら展示の欠点や改良点を伝えていたため、見学時には1・2年生からかなり辛口の意見が寄せられたようである。解説を担当した学生の人柄の助けもあり、気兼ねなく感想を言い合える見学会にすることができた。

ロビー展は4回目となった。テーマは毎年異なるものの、展示の切り口や資料は1回目のタイトル「農大生が見た網走」と同様であり、内容について方向転換することが必要と感じている。



自作のサケ頭骨を手にする町田学芸員



小学校全学年で役割分担して学ぶサケの一生

○農大口ビー展「網走川」

開催期間 12月6日(土)～14日(日) 9:30-16:30

開催場所 北海道立北方民族博物館特別展示室(ロビー)

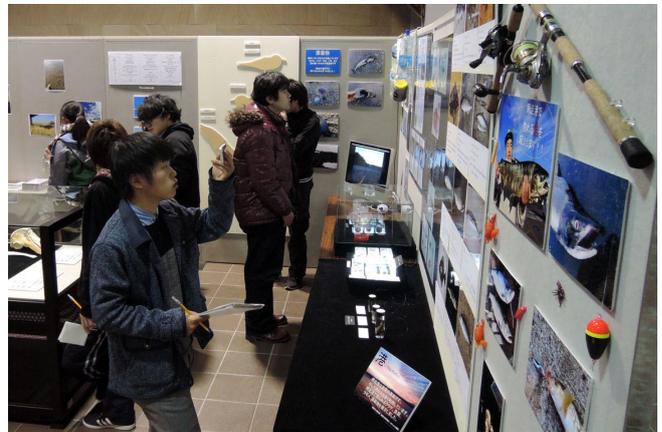
主催:東京農業大学学術情報課程(オホーツクキャンパス)

展示テーマと展示資料

- 1) 天都山 押葉標本、草花解説ノート、トビとオジロワシのシルエットパネル
キノコの写真、天都山からの眺望写真、足跡グラフィック
- 2) 網走湖 網走湖のパノラマ写真、増殖事業の写真、プランクトンクイズ
- 3) 川の生き物 サケの遡上産卵ジオラマ、ジオラマ制作過程の紹介写真
液浸標本(ヤマメ、ウグイ、ウキゴリ、スジエビ、ガガンボ)
- 4) 網走港 釣具、釣魚の写真、液浸標本(ワカサギ、クロソイ、エゾメバル)
透明標本(クロソイ、ワカサギ、キンギョ、ジンドウイカ)、漂着物(ペットボトル、ミンククジラと
イシイルカの頭骨)、カモメ3種のシルエットパネル



制作: 酒見清香



上段 左:カモメと漂着物の前で説明する3年生 右:網走港の釣魚のコーナーで写真を撮る1年生

下段 サケの一生と漂着物(ミンククジラとイルカの頭骨) 右:オジロワシとトビのシルエット、きのこ、足跡



サケ産卵場のジオラマ クラゲ液浸標本 幼魚とイカの透明標本 漂着していたクジラとイルカの頭骨

4. 館園実習

本年度の実習生は34名（3年生33名・科目等履修生1名）、受入先は北海道5館14名、宮城県1館1名、群馬県1館1名、埼玉県1館1名、東京都2館2名、神奈川県2館4名、静岡県1館1名、兵庫県1館1名、三重県1館1名、和歌山県1館1名、愛媛県1館1名、高知県1館1名、長崎県1館1名、沖縄県2館4名であった。大学内での実習者は2館3名にすぎず、大半の学生は学外の施設で実習をおこなった。実習者34名のうち26名が生体展示施設での実習者（動物園8・水族館14・植物園2・複合2）と大半を占め、いわゆる博物館での実習者は4名、科学館1名であった。

お忙しいなか、実習生を受け入れてくださった館園にお礼申し上げます。

学籍番号	氏名	実施期間	館園名
○生物生産学科 3年生10名			
42212000	女子学生	2014.9.10-23	札幌市円山動物園
42212000	男子学生	2014.9.8-18	東京農業大学植物園（厚木キャンパス）
42212000	女子学生	2014.11.24-12.3	ネオパークオキナワ名護自然動植物園
42212000	女子学生	2014.8.1-12	美幌博物館
42212000	女子学生	2014.8.25-9.3	釧路市動物園
42212000	男子学生	2014.8.1-12	美幌博物館
42212000	女子学生	2014.9.9-20	伊豆・三津シーパラダイス
42212000	女子学生	2014.9.1-14	新江ノ島水族館
42212000	女子学生	2014.11.19-27	草津熱帯園
42212000	女子学生	2014.8.10-20	狭山市こども動物園
○アクアバイオ学科 3年生20名			
42312000	女子学生	2014.10.15-25	標津サーモン科学館
42312000	男子学生	2015.1.4-14	桂浜水族館
42312000	男子学生	2014.10.27-11.6	標津サーモン科学館
42312000	男子学生	2015.1.30-2.4	北海道立北方民族博物館
42312000	女子学生	2014.11.6-14	国営沖縄記念公園（海洋博公園・美ら海水族館）
42312000	女子学生	2014.8.1-14	新江ノ島水族館
42312000	男子学生	2014.8.11-22	神戸市立須磨海浜水族園
42312000	女子学生	2014.10.15-25	標津サーモン科学館
42312000	女子学生	2014.11.24-12.3	ネオパークオキナワ名護自然動植物園
42312000	女子学生	2014.11.9-19	串本海中公園
42312000	女子学生	2014.11.6-14	国営沖縄記念公園（海洋博公園・美ら海水族館）
42312000	男子学生	2015.1.30-2.4	北海道立北方民族博物館
42312000	男子学生	2015.1.30-2.4	北海道立北方民族博物館
42312000	女子学生	2014.8.1-12	美幌博物館
42312000	女子学生	2014.11.15-24	九十九島水族館「海きらら」
42312000	女子学生	2014.9.20-10.4	鳥羽水族館
42312000	女子学生	2014.8.25-9.3	釧路市動物園
42312000	男子学生	2014.10.27-11.6	標津サーモン科学館
42312000	男子学生	2015.2.5-15	愛媛県立とべ動物園

42312000	男子学生	2014.8.1-7	マリニピア松島水族館
○食品香粧学科 3年生2名			
42412000	女子学生	2014.8.22-31	多摩六都科学館
42412000	女子学生	2014.8.6-8, 10, 19-24	東京農業大学「食と農」の博物館
○産業経営学科 3年生1名			
42512000	女子学生	2014.9.8-18	東京農業大学植物園（厚木キャンパス）
○科目等履修生 大学院博士前期課程1名			
47213000	男子学生	2014.8.1-12	美幌博物館



撮影：多摩六都科学館



上段 左：北海道立北方民族博物館 右：多摩六都科学館（東京）
下段 左：桂浜水族館（高知） 中：九十九島水族館「海きらら」（長崎） 右：鳥羽水族館（三重）

5. 自主的な活動

博物館などでの自主実習やボランティア活動への参加状況は以下のとおりである。受け入れてくださった施設の皆様にお礼申し上げます。

【自主実習】

1) オホーツクとっかりセンター（紋別市）

アクアバイオ学科3年生の女子学生が、オホーツクとっかりセンターで飼育と来客対応を中心にした実習を行なった（2015.2.18-3.3）。内容は調餌、給餌、清掃、園内行事の補助であった。

【ボランティア活動】

2) 北海道立北方民族博物館（網走市）

「第6回はくぶつかんまつり」（2014.11.3）に生物生産学科1年1名、アクアバイオ学科3年1名と食品香粧学科3年生1名（いずれも女子）の計3名が、「開館記念感謝Day」（2015.2.11）にアクアバイオ学科3年1名と食品香粧学科3年生1名（いずれも女子）の計2名がボランティアとして参加した。

3) 標津サーモン科学館（標津町）

「稚魚放流式」（2014.5.3-5）にアクアバイオ学科2年2名（男子1・女子1）および3年女子2名が、などの連休行事の補助、水槽の清掃を行なった。

6. 年間カレンダー

- 4月 9日 受講希望者向け説明会
4月23日 第1回教職・学術情報課程委員会
5月10日 美幌博物館見学（3年生）
5月19日 受講学生決定
5月20日 網走市立郷土博物館丸万収蔵庫見学（3年生）
5月29日 北海道立北方民族博物館見学（1年生）
6月 5日 網走市立郷土博物館・モヨロ貝塚館見学（1年生）
6月19日 博物館網走監獄見学（1年生）
6月21日 釧路市動物園および釧路市立博物館見学（2年生）
6月28日 全国大学博物館学講座協議会全国大会に参加（琉球大学、沖縄県立博物館・美術館）
7月 9日 エコーセンター2000および網走市立美術館見学（2年生）
8月26～28日 札幌館園見学旅行（3年生）
10月29日 第2回教職・学術情報課程委員会
11月22日 足寄動物化石博物館見学：展示室解説および化石レプリカ作成（2年生）
12月 2日 特別授業1：美幌博物館・町田善康学芸員 2年生「博物館展示論」
12月 6～14日 農大ロビー展「網走川」開催 会場：北海道立北方民族博物館特別展示室
12月10・11日 農大ロビー展「網走川」見学会（1・2年生）
1月21日 特別授業2：標津サーモン科学館・市村政樹館長 3年生「博物館経営論」

【博物館などへの採用実績】

・新卒者

小樽水族館（北海道） アクアバイオ学科男子1名2013年3月卒業 同年4月採用

長岡市寺泊水族博物館（新潟） アクアバイオ学科女子1名2011年3月卒業 同年4月採用

串本海中公園センター（和歌山） 生物生産学科男子1名2011年3月卒業 同年4月採用

・既卒者・科目等履修生

富士サファリパーク（静岡） 生物生産学科女子1名2013年3月卒業 同年4月採用→2014年4月から飼育担当

富士山こどもの国（静岡） 生物生産学科女子1名2013年3月卒業 同年4月採用

→2014年4月から富士サファリパークで飼育担当

釧路市立博物館（北海道） 生物生産学科男子1名2003年3月卒業 2013年4月採用

美幌博物館（北海道） 生物生産学科男子1名2003年3月卒業 2010年7月正職員登用

・アルバイト期間契約職員など

多摩六都科学館（東京） アクアバイオ学科女子1名2009年3月卒業 2014年4月-

さいたま水族館（埼玉） アクアバイオ学科男子1名2012年3月卒業 2013年4月-

南三陸町自然環境活用センター準備室（宮城県）復興庁派遣

アクアバイオ学科男子1名2010年3月卒業 2013.4月-2015.3月

海遊館（大阪） アクアバイオ学科女子1名2012年3月卒業 2012年7月-2014年7月

発行：東京農業大学学術情報課程（オホーツクキャンパス）博物館情報学研究室 平成27年（2015）3月
099-2493 網走市八坂196 Tel: 0152-48-3857 Fax: 0152-48-2766 y3uni@bioindustry.nodai.ac.jp